

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 76 松本裕史 (武庫川女子大学)

1) 学会からのお知らせ

■ヘルス・サイコロジスト No.78 発行 (広報委員会)

日本健康心理学会のニューズレターである「ヘルス・サイコロジスト」のNo.78が発行されました。本号では、学会の動向や最新の研究・実践について紹介されています。是非、ご一読ください (添付ファイル)。

2) 健康心理学コラム Vol. 76

「子どものサッカーの試合で考えたこと」

松本裕史 (武庫川女子大学)

先日、子どものサッカーの試合を応援に行った時のことです。相手チームのコーチは、チームの選手がミスすると、「なにやっぺんねん！こら！」と大きな声で怒鳴っていました。この光景は日本のスポーツ現場でよく目にするものですし、そのようなコーチの行動に「コーチはしっかり指導してくれている」と思う親たちがいることも確かです。しかし、そのようなコーチの行動はほんとうに選手のためになっているのでしょうか？

私たちの研究グループは、指導という名のもと、スポーツ現場で暴言や圧力などを容認する風土が残っていることに違和感を覚え、コーチの統制的行動 (Control behavior) に注目して研究を始めました。コーチの統制的行動とは、コーチが強制的、高圧的、権威的な方法で、選手に対して特定の考えや行動を強いることです (Bartholomew et al., 2010)。たとえば、選手がコーチの望むようなことをしなかったら、その選手に対してそっけない態度をとることが挙げられます。私たちは国際比較が可能な尺度を作成し (Matsumoto et al., 2018)、その尺度を使用して女子大学生アスリートを対象に検討を行いました。その結果、コーチの統制的行動は選手の基本的心理欲求の不満を媒介し、無動機づけ (無気力) を高めることが明らかになりました (戸山他、投稿中)。

私たちがコーチの指導スタイルを変えることはできません。しかし、私たちが研究成果を積み重ねることによって、コーチが自分自身に矢印を向けるきっかけになることを期待して研究を続けていきたいと考えています。

文献

Bartholomew, K.J., Ntoumanis, N., & Thøgersen-Ntoumani, C. (2010). The controlling interpersonal style in a coaching context: Development and initial validation of a psychometric scale. *Journal of Sport & Exercise Psychology*, 32, 193-216.

Matsumoto, H., Toyama, N., Shibukura, T., & Kono, K. (2018). Psychometric Properties of the Japanese Version of the Controlling Coach Behaviors Scale in the Sport Context, *ASPASP 2018 Book of ABSTARCT*, 249.

戸山彩奈・松本裕史・渋谷崇行・幸野邦男 (投稿中)。スポーツ指

導

者の統制的行動が女子大学生アスリートの動機づけに及ぼす影響。

-----

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <[jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp)>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <[jahp-ML@bunken.co.jp](mailto:jahp-ML@bunken.co.jp)>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>